

びとう和広 市政報告

発行日：2018年10月1日

発行者：三田市議会議員
びとう 和広

市民とともに進める市政を！



びとう市議は、三田市議会定例会9月議会において、皆様の声をもとに、一般質問し、市の見解を求めました。

<びとう議員の三田市議会：一般質問>

1. 喫煙と禁煙について
2. 市民とともに進める市政について
3. 三田のブランド創造について

(問)：びとう質問概要

(答)：三田市答弁

(数)：質問項目

(び)：びとうの考え

本号では、9月に開催された三田市議会定例会の、びとう議員の一般質問における質問内容および三田市の答弁ポイントについて、報告致します。

1. 喫煙と禁煙について

(問) 東京五輪に向け2018年7月国は「健康増進法」を改正し、2020年4月までには、罰則規定を含めた受動喫煙防止を強化するよう、進められている。

(1) 受動喫煙防止に関する市条例：「三田市空き缶及びタバコの吸い殻等のポイ捨て、路上喫煙並びに自転車の放棄の防止等に関する条例」を制定した目的と、現在の状況はどのようなものか。

(2) 喫煙禁止区域を見直し：2013年の条例改正で路上喫煙禁止エリアが制定されて5年間、環境が変わっても区域を見直さない。

① 喫煙可能場所のあるペデストリアンデッキの植栽が撤去されて、今は人工芝のマットが敷かれ、子供たちが転がって遊んでいる。喫煙可能場所のすぐ横であり、風向きで煙が流れてくる。場所を見直すか、防煙壁を工夫して、煙が来ないように出来ないか？

② 喫煙禁止区域の近くに2つの保育園ができ、通園する子どもたちが路上喫煙禁止区域外を通過している。路上喫煙禁止区域を保育園まで拡大することができないか。

③ 国の健康増進法の改正を機に喫煙禁止区域を見直してはどうか。

(3) 電子タバコ・加熱式タバコの取扱い：どう位置づけるのか。

(答) (1) 受動喫煙防止に関する市条例：

タバコの煙による健康被害への関心が高まったことから、兵庫県条例の「受動喫煙の防止等に関する条例」が2013年4月施行され、三田市も2013年2月に「路上喫煙防止等に関する請願書」が市議会に提出され、採択された。多くの人が行き交う道路など屋外の公共の場所での喫煙に伴う受動喫煙による健康被害、火傷や衣服の焦げの他、ポイ捨てにもつながらる悪質な迷惑行為の防止を図ることを目的として、1997年度施行の「空き缶及びタバコの吸い殻等のポイ捨て防止に関する条例」を2013年9月に改正し2014年4月施行し、三田駅周辺及び新三田駅周辺の路上喫煙禁止区域に指定し、三田駅周辺についてはキッピースクエア内に喫煙可能場所を設置した。

市民と協働して路上喫煙禁止の啓発により、条例施行当時と比べると、タバコの吸い殻のポイ捨ては減少傾向だが、なくなったわけではない。

三田のまちの顔「三田駅」付近が汚れているのはまちのイメージダウン。屋外の受動喫煙被害を減らすため、今年中に、喫煙マナーの徹底等の啓発活動や路上喫煙者への指導強化と、条例に基づく勧告、公表、過料等の措置を適切に行う等効果的な方策の実施も検討する。

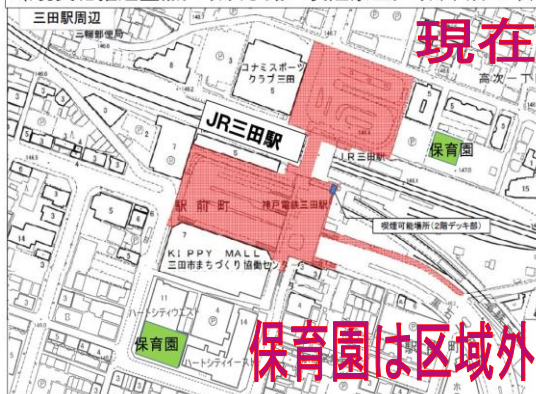
(答) (2) 喫煙禁止区域を見直し：

① 三田駅の喫煙可能場所は歩行者の動線等を考慮して現在の場所を選定し、2014年3月に日本たばこ産業株式会社から寄贈を受けて設置し、5年間は撤去等行わない旨の覚書を締結している。喫煙可能場所は、パーティションで区切った吹き抜け構造で、風向きにより歩行者側に煙が流れる。キッピースクエアは多くの歩行者が通行し、イベント等でも使用する場所でもあり、受動喫煙の防止に向け、喫煙可能場所の構造の変更、別の場所への移設または撤去を検討する。

② 三田駅周辺の路上喫煙禁止区域に隣接し、2つの保育園が新設された。禁止区域外の喫煙により、タバコの煙が保育園に行き来する方や園児等に影響を及ぼす恐れがあるため、保育園周辺の道路を路上喫煙禁止区域に指定し、区域拡大する。

③ 神戸電鉄の横山駅、フラワータウン駅、南ウディタウン駅、ウディタウン中央駅及びJR相野駅の環境美化推進重点区域を路上喫煙禁止区域に指定し、条例の目的である美化意識やマナーの向上により美しいまちづくりを推進し、市民の快適で安全な生活と良好な都市環境の確保を図る。

環境美化推進重点区域及び路上喫煙禁止区域(平成30年)



(答) (3) 電子タバコ・加熱式タバコの取扱い：他自治体でも取扱いが統一されておらず、様々な見解があるが、三田市は、通常の喫煙行為と紛らわしいため喫煙可能場所で喫煙するように指導している。

・電子タバコ：ニコチンのない液体の蒸気
・加熱式タバコ：葉タバコの加熱による煙を吸うため、ニコチンが含まれる。

(び) 国の健康増進法の改正や条例施行から5年間経過もあり、市長も積極的に全面的見直しに応じてくれました。健康を考えるとタバコを吸わないほうが良いのですが、喫煙者の権利も、煙を吸いたくない人の権利も守る制度を、年内目標で約束してくれました。

1. 喫煙と禁煙について(続き)

<p>(問) (4) 勤務中の喫煙: 喫煙そのものを否定する気は無いが、勤務時間中であること、また、市民に見られているという視点から、市の考えはどうか。</p> <p>(5) 禁煙支援の強化: 喫煙は個人の権利だが、健康に有害である事は確かである。健康保険のことも考えると少しでも禁煙を勧めるべきと考えるが禁煙支援をどのように強化するのか。</p>	<p>(答) (4) 勤務中の喫煙: 従来から庁舎内全面禁煙の取り組みにより、現在庁舎敷地内に複数個所の喫煙スペースを設けている。</p> <p>職員の勤務中の喫煙は、当該喫煙スペースにおいて、勤務時間中を十分に認識し、市民に誤解を招くことのないよう節度ある態度を求めている。</p> <p>しかし、服務規律確保の観点から、今後は市民のご理解を得ながら喫煙を休憩時間に限定することや、喫煙場所の縮小等について検討していく。</p>	<p>(答) (5) 禁煙支援の強化: 社会全体の重要課題で、市は2014年策定の健康さんだ21計画で「健康的な生活習慣の実践」に「喫煙の軽減」を掲げ、受動喫煙の防止と喫煙者の減少に向け、タバコが健康に及ぼす影響に関する知識の普及と禁煙の支援に取り組んでいる。</p> <p>具体的には、マタニティ教室等妊娠期からの教育、県と連携した街頭キャンペーン、いい歯の日のフェアや健康推進委員活動等市民への啓発、市ホームページ等による情報周知とともに、妊婦面談や市民健康相談では、禁煙希望者への個別相談支援を実施している。アンケート調査では市の喫煙率は、2012年度調査の15.3%から2017年度調査では11.8%に減少している。</p> <p>今後、現取組みに加え、市内の禁煙外来の医療機関や禁煙支援の薬剤薬局との連携による啓発など進める。</p>
--	--	---

2. 市民とともに進める三田市政について

<p>(問) スマートセレクトや公共施設マネジメントは市民に負担をかけ、協働の呼びかけもとてもハードルが高い。市民が参加しやすく、三田を好きになれる仕組みが必要。</p> <p>(1) 兼業・副業活用による職員強化: 国の兼業・副業促進を活かした市民参加は。</p> <p>(2) AI利用によるLINE問い合わせサービスの8月実証実験の状況と課題: サービスはまだ未熟。参加した市民とのつながりを大切にしたい。今後どうするのか。</p> <p>(3) 市民の情報を受け付ける仕組みづくり: 市民の形態やスマホから情報提供できる仕組みはどうか。</p>	<p>(答) (1) 兼業・副業活用による職員強化: 民間人材活用は平成28年度からコーポレートフェロウシップ(民間企業社員を自治体に派遣し、職員や市民と地域の課題解決に取り組む制度)を活用し、企業から派遣の社員と、オープンデータ化や若者のまちづくり支援など市の魅力発信や情報化支援、業務改善など働き方改革の取り組みを実施。</p> <p>地方創生や政策課題の対応等に、政策顧問や地域創生アドバイザーを非常勤特別職とし、助言・提言など本市の懸案課題に迅速・機能的に取り組む中。民間人材の積極的活用は職員の学びと専門性を高め、任期付職員の採用等可能な範囲内で、職員の専門性を補足し能力向上や組織作り、成熟のまちづくりを進めていく。</p>	<p>(答) (2) AI利用によるLINE問い合わせサービスの8月実証実験の状況と課題: 自動応答システム(チャットボット)の実証実験を8月～10月まで、4分野約400問のQ&Aを設定し実験を開始し、現在約200名が参加。8月末までに質問は約1300件で現在質問と回答結果を検証中。</p> <p>当初設定のQ&Aは概ね正答だが、これ以外の問合せをQ&Aデータの修正・追加中。回答精度向上のため、引き続きAIへの学習を研究中。</p> <p>今後、3カ月間の実験終了後はアンケート実施し、アンケート結果や実験で得られたデータを検証して実用化に向け効果や課題等をまとめる。</p>	<p>(答) (3) 市民の情報を受け付ける仕組みづくり: 2018年度情報通信白書で2010年度:約10%のスマートフォン世帯普及率は急上昇し、2017年度75.1%と、パソコン世帯所有率72.5%を上回った。機器種類別のインターネット利用率もスマートフォン59.7%が最も高くパソコン52.5%の利用率を上回った。</p> <p>またインターネットの利用目的としてSNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)の利用が各世代とも前年より増加しているなど近年市民のICT利用環境や利用方法が変化し、より身近なものとなっている。</p> <p>市民からの意見・情報収集や本誌からの情報提供について、スマートフォンやSNSなど市民の皆様が使い慣れた機器、サービスを利用し気軽に市政参画できる環境作りと市民サービスの向上に、より一層取り組む。</p>
--	---	---	--

3. 三田のブランド創造について

<p>(問) (1) メディアとの連携によるブランド創造: 三田の景観や自然を活かしたフィルムコミッション(地域をあげて撮影協力する活動)で三田ブランドを創ってはどうか。</p> <p>(2) 市民参加型のシティプロモーション: 市民や三田を好きな人を巻き込んだ情報発信の仕掛け、市民が参加し、三田を好きになり、その思いを、市民目線でSNS発信できる、プロモーションはどうか。</p> <p>(3) 市民参加型のシティプロモーション: 市民や三田を好きな人を巻き込んだ情報発信の仕掛け、市民が参加し、三田を好きになり、その思いを、市民目線でSNS発信できる、プロモーションはどうか。</p>	<p>(答) (1) メディアとの連携によるブランド創造: ブランド発信は、若者など具体的なターゲットに効果的手法が必要であると認識し、映像系を中心としたメディアとの連携やInstagram・YouTubeに代表される映像系SNS活用は訴求力や拡散性から有効と考えている。</p> <p>三田市はマスメディアへの積極的な情報提供や公式Facebookの活用を進め、新たにInstagram開設や動画投稿サイトの積極的な活用の可能性の課題を整理中。</p> <p>フィルムコミッションは県が主宰する連絡組織「兵庫ロケ支援ネット」に加入し、情報収集中。</p> <p>今後、市民の誘致気分の盛り上がり動向なども見ながら具体的取り組みを研究する。</p>	<p>(答) (2) 市民参加型のシティプロモーション: 景観や市の良さなどを意識して頂く工夫、市民自ら発信者となる取り組みは、2016年度の創設三期目の「住まいるチーム」に、当初から委嘱の移住定住促進イベント対応に加え、本年度から「ここが好き」といった市民・生活者目線の魅力発信やつながりのある方々に影響力のある情報発信者の役割を重視する方針に転換し、趣旨に賛同する方々から応募頂いた。</p> <p>現在Instagram開設に併せ、市の魅力を市民自らが効果的に発信する仕組み構築を「住まいるチーム」メンバーと議論を進め、まもなく試験運用を開始する。</p> <p>今後、SNS活用で市民一人一人が「住まいるチーム」の一員と意識し、各自の視点から暮らしの中のいいねを気軽に発信できる仕組みや雰囲気醸成に努める。</p>
<p>(注) 最近の市の進め方は、ボランティアやまちづくり協議会などへの依存性が高く、公共施設マネジメントなどでは結論ありきと見られている。協働のまちづくりならば、市民が参加しやすい事業からつながり、市民意識の高揚を図ることが必要と考えて、今回の提案をしました。</p>		

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号

Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730

<電子メール> bit@venus.dti.ne.jp

<ホームページ> <http://www.bit0-kazuhiro.com>



三田市議会議員

かずひろ
びとう 和広

